

「挑戦」

【滋賀大学 経済学部】

会計ビジネス科 男子

私は、高校に入学した当初は指定校推薦を活用して大学に進学しようと考えていました。しかし、1年生の担任の先生との面談をきっかけに、滋賀大学をめざすという選択肢が加わりました。滋賀大学に進学する先輩のことは知っていて、どこか憧れはありましたが、それが私自身の受験に深く関わることは想像もしていませんでした。

滋賀大学に合格するために、私が特に意識してきたことは2点あります。

1点目は、目の前に広がったチャンスを必ず掴み、逃げずに挑戦し続けることです。高校生活の中で、失敗や思うようにいかない経験を数えきれないほど重ねてきました。悔しさや苦しさを感じた場面も多くありましたが、それらに向き合ってきた時間が、今の私を形作っていると感じています。挑戦した結果上手くいかなかったことはあっても、挑戦したことそのものを後悔したことはありません。その積み重ねが、私を前へと進ませてくれると信じていたからです。

2点目は、夢や目標を声に出すことです。全商9冠を目指すことや、滋賀大学に進学したいという想いを言葉にするのは、正直こわさもありました。失敗を重ねてきたからこそ、口に出すことにためらいを感じたこともあります。それでも伝え続けたことで、友人が励ましてくれたり、先生方が時間を割いて支えてくださったりと、私だけでは越えられなかった壁を越えることができました。

滋賀大学への進学は、私にとってゴールではなく、新たな挑戦のスタートです。これまで支えてくださった方々への感謝を胸に、学び続ける姿勢を忘れず、私自身の可能性の幅を広げていきたいと考えています。常に行動をし、挑戦し続けることで、これからの社会で常に求め続けられる人材へとさらに成長していきたいです。

「周りの人からの支え」

【滋賀大学 データサイエンス学部】

ITビジネス科 女子

私は高校2年生から進路について深く考えるようになりました。最初に滋賀大学データサイエンス学部を知ったのは先生方からの紹介でした。その後、大学について自分で調べている中で興味が深まり、多分野に携わる教授陣の指導を受けられるという点に魅力を感じて受験を決意しました。

私が受験した総合型選抜は、同じ内容で受験した先輩がおらず、自分で情報を集めて対策をする必要がありました。選抜方法は、志望理由書とレポートの提出、筆記試験、面接試験でした。志望理由書とレポートは夏休みから担任の先生に何度も添削していただいて何とか完成させ、提出することができました。筆記試験は数学と英語で、特に数学には商業高校で習わない範囲も多く、自主的に勉強を進めていく必要がありました。そのため、数学の先生から勉強の進め方についてアドバイスをいただいて、勉強に取り組みました。また、面接試験に向けては、多くの先生方に面接練習をお願いしました。先生方はそれぞれ、話す内容や立ち振る舞い、言葉遣いなど様々な観点から、親身になってご指導くださいました。試験当日は、先生方を始めとして、進路関係でいないときも部活を支えてくれた部員や、常に応援してくれていた家族・友達などの周りの方々のことを思い出しながら試験に臨みました。そして私は無事に合格をいただくことができました。この結果は文章に書ききれないほどの多くの方々の協力や助けがあってこそのものだと強く実感しています。周りの方々への感謝がいつか自分の力となって返ってきてくれると信じているのでこれからも、感謝を忘れずに進学先でも頑張りたいと思います。

「好きなことを、全力で」

【名古屋市立大学 経済学部】

I Tビジネス科 男子

私は簿記や情報処理などの商業科目に興味があり、愛知商業への入学を決めました。その両者を学ぶため、簿記を究める部活動「経理研究部」での活動と情報処理を学ぶ学科「I Tビジネス科」での学びに、一生懸命に取り組みました。

私が高校生活で最も大切にしていたことは、「謙虚に、常に上を目指す姿勢」です。これは主に部活動の大会で上位入賞するために意識したことで、「ここまでできれば大丈夫」ではなく「今度は〇〇ができるようになりたい」と常に考えていました。その向上心があれば、無意識に自ら難しいことにチャレンジするようになっていきます。そして、難しい問題を自力で解答できた時や検定試験に合格できた時に、達成感を味わうことができます。その喜びから、また新たな目標を見つけるということが、繰り返し連鎖して自らを成長させてくれるのです。自分が夢中になれること、つまり「本当にやりたいこと」は、部活動で究めた「簿記」と授業で学びを深めた「I T」でした。自分の夢中になれることを見つけ実現できる場所が、愛知商業です。自分の好きなことを見つけて、全力で取り組んでください。高校での3年間、何かに向かってひたむきに努力していればいつか結果となって帰ってきます。実際に、私の3年間の取り組みが認められて、名古屋市立大学に合格することができました。目標から逸れず自分のすべきことを継続してこなすことが、自分の進路を実現する一番の近道です。これを読んだ皆さんが希望の進路を実現し、明るい人生を歩むことを心から応援しています。

「三年間の努力」

【山口大学 経済学部】

会計ビジネス科 女子

私は将来、公認会計士になるという目標を胸に、1年生の冬に志望大学を決定し、受験準備を始めました。過去に山口大学に進学した先輩がいないため情報が無く、前例のない挑戦に不安や焦りで押し潰されそうになりました。しかし、自ら動かないと道は切り拓けないため、総合型選抜と共通テストの受験に向けて、計画を立てて徹底的に行動しました。

2年生の夏から共通テスト対策の塾に通い始めました。期末考査や検定試験、部活動との両立は想像を超える厳しさでしたが、必ず合格するという強い決意が原動力となり、どんなに疲れても学習をやめることはありませんでした。また、山口大学のイベントには全て参加することで、大学での学びや雰囲気を感じ、志望理由書に説得力を持たせることが出来ました。志望理由書は2年生の冬から作り始め、先生の熱心な添削を受け、内容を何度も練り直しました。

3年生の夏休みは、ほぼ毎日2時間睡眠という極限状態での生活が続きました。昼間は塾で共通テスト対策、帰宅後は翌朝まで総合型選抜の準備に没頭する日々でした。それら努力を重ねるたびに自分の成長を実感し、困難を乗り越える喜びと達成感が、挑戦する意欲を生み出しました。面接練習は毎日欠かさず行い、先生方には厳しく指導して頂きました。それらの指導を全力で吸収し、改善を重ねました。その努力の積み重ねが自信となり、本番では自分の思いを伝え切ることが出来ました。努力の積み重ねを実感するたび、自信と挑戦への意欲が胸に溢れ、迷いなく本番に臨むことができました。

受験後から合格発表までの期間は不安の連続でした。合格したことを先生方に伝え、心から喜んで下さる姿を目にした瞬間、これまで費やした全ての努力が確かな成果となったことを実感しました。努力は必ず力になり、目標に向かい全力で挑戦する大切さを教えてくれました。進学後も、この経験を糧に困難を恐れず、常に全力で学び続ける姿勢を貫きたいです。

「諦めないことの大切さ」

【南山大学 経営学部】

会計ビジネス科 男子

私は中学生のころ、何のために勉強をしているのかわかっておらず、授業を真面目に聞かないなど勉強への意欲がわかず、分からないことがあっても理解しようとしませんでした。

しかし、簿記の勉強を進めていくうちに簿記というのが自分の将来に役立つことに気づきました。そして昔からお金の計算が好きだったこともあり、簿記が好きになりました。また、簿記の資格を取れば就職や進学で有利になることを知ったため、勉強に対して前向きになりました。そして、簿記についてさらに知りたいと思うようになり、分からない問題も諦めずに解くようになっていきました。難易度が高い問題を理解できたときの達成感は大きく、日々成長をする自分を認識していくたびに諦めないことの大切さを知りました。諦めてしまえば成長は止まってしまいます。だからこそ、うまくいかない日が続いても、諦めずに続けることが大切だと思います。高校3年間で何度も諦めそうになることがありましたが、友人や家族に助けてもらいながら、諦めず頑張り続けたことで今の自分があると思います。

進学先では簿記以外の勉強も難しくなり大変になると思いますが、愛知商業高校で学んだことを忘れずに何事も諦めずに頑張っていきたいです。そして今の自分よりも成長した姿になれるようにしていきたいです。

「信頼と挑戦」

【明治大学 商学部】

会計ビジネス科 女子

私は、どの仕事に就いても役に立つことを学びたいという思いで、愛知商業高校に入学しました。そして、将来の選択肢を広げるために、さまざまなことに挑戦しました。

高校生活の中での最も大きな挑戦は、明治大学へ進学することでした。進学を志すようになったのは高校2年生の時でした。しかし、自分の実力を上回る水準の大学で、かつ県外であったため、私には難しいと判断し、一度断念しました。それでも、再び志すようになった背景には、日々の努力がありました。私は自分の人生を豊かなものにしたいという思いから、現状に満足することなく、継続的に努力を重ねてきました。定期テストや資格取得に力を入れるのはもちろん、3年生では上級コースへ進み、より高度な学習に取り組みました。さらに、室長を務めたり、学校行事にも全力で取り組んだりしました。これらの努力によって、能力が向上するとともに、周りからの信頼も得られて、明治大学への進学に挑戦することが出来ました。

これらの経験から、さまざまな知識を蓄えることの重要性を学びました。知識が増えるほど引き出しが多くなるので、多様な視点で物事を捉えることが出来ます。それだけではなく、知識があることによって将来の選択肢が増えるため、より充実した日々を送ることが出来ます。未来のことは誰にも分からないからこそ、今の自分にできることに進んで取り組むことが大切だと私は考えました。

私の高校生活は挑戦の連続でした。さまざまなことに挑戦できたのは、家族や友達、学校の先生方が私のことを信頼して、支えてくださったおかげです。大学進学後も、信頼関係を大切にして、自分自身だけでなく、周りの人も充実した日々を送れるように、精一杯頑張ります。

「動き出した夢のかたち」

【公立西知多看護専門学校】

グローバルビジネス科 女子

私は、1年生の頃から様々な資格の取得に励みながら、自分に合った進路を模索していましたが、中々「これだ」と思えるものに出会えず、進路に対して不安や焦りを感じる日々が続いていました。そんな時、学校の掲示板で「1日看護師体験」の案内を見つけ、中学生の頃の手術の経験を思い出して思い切って応募したことがきっかけとなり、今までぼんやりとしたイメージでしかなかった自分の将来像がだんだんと形になっていきました。体験学習では、患者さんに寄り添い、優しく声をかけながら丁寧にケアをしている看護師の姿を見て、自分が将来なりたい看護師像を想像することが出来ました。

その後、夏休みにオープンキャンパスに参加し、学ぶ年数や学費、雰囲気異なる大学と専門学校のどちらを選ぶかとても悩みました。私は早く看護師として働きたかったのと、助産師学校に通いたいという気持ちがあったため、専門学校に進むことに決めました。そして、授業体制や学校の雰囲気が自分にあっていた公立西知多看護専門学校を迷いなく第一志望校に決めました。

過去にこの学校を受験した先輩がいなかったため、情報が少なく不安もありましたが、進路の先生が出願書類の準備や面接練習などを丁寧にサポートしてくださり、安心して試験に臨むことができました。そのおかげで、無事に合格することができ、心から感謝しています。

今、進路に悩んでいる後輩の皆さんに伝えたいのは、「迷っても大丈夫」ということです。焦らず、いろいろな体験や人との出会いを通して、自分の本当の気持ちに気づくことができます。自分の心に正直に、納得のいく道を選んでください。皆さんの未来を心から応援しています。